

令和7年度 地域連携推進会議 議事録

社会福祉法人豊寿会
障がい者支援施設 妙光園

- 日時：令和7年12月24日（水）午前10時00分～午前11時30分
- 場所：障がい者支援施設妙光園 会議室
- 出席者：利用者代表 A氏
利用者家族代表 B氏
地域の関係者代表 C氏
福祉に知見のある者 D氏
妙光園：施設長、ディレクター
法人本部：課長、コンプライアンスチーフ（事務局）

■ 議題

1. 施設長挨拶

地域連携推進会議の開設により、地域の皆さんに当施設や利用者さんへの理解を深めて頂く機会として期待感を持っている。また、情報共有や意見交換を行い、地域とのつながりづくりをしていきたい旨を施設長が述べた。

2. 委員の紹介（事務局）

事務局より委員の紹介があり、各々が挨拶をした。

3. 妙光園実施事業、各種取り組み説明（事務局）

- ・妙光園（歴史、利用者像、職員体制、経営状況）の概要説明
- ・各種取り組み（虐待防止及び身体拘束適正化、事故の発生状況、苦情等の状況、感染症対策及び防災、地域及び法人内等との連携）の概要説明

4. 質疑応答

- ・地域の関係者代表 C氏

町内会として施設とどのような形で関わっていけばよいか教えてほしい。連携を取っていけば、町内でトラブルがあった場合にうまく解決できるでしょう。

施設長：今までも防災協力隊として協力していただいた経緯があるが、今後も町内会の皆様にご協力頂きたいことはあるので、その都度発信させていただければと

思います。

・利用者家族代表 B氏

災害が発生した場合に福祉避難所として指定されていると思うが、災害発生時は限られた職員で運営することは大変だと思うので、その時の協力体制の構築が必要と思う。利用者の家族としては、日ごろ通っている事業所に来るのが一番安心する。現状では、一度一般の避難所に行って、そこから福祉避難所に振り分けられるが、保護者からしたら大変です。

昨今は町内会の関りが薄くなっている時代。町内に新しく入った人も交流する場があると良いと思う。「妙光園はこのような所です」「利用者さんはこのような方々です」という感じのコミュニケーションの場があってもよい。ただし、以前開催していたフェスティバルのように職員の皆さんに負担がかからない程度に、外部委託したり、保護者会や町内会の方などにボランティアを頼んだりすると、より交流が持てると思う。地域の学校の部活に依頼するなどしても、そこから保護者が来たり、友達が見に来たりして、広がっていくと思います。

施設長：当施設は福祉避難所として指定されているが、運用は八戸市のマニュアルに沿って行われる為、現況では原則一次避難所に行かれてからの対応になることはご理解いただきたい。災害時は当施設のスタッフだけでは福祉難所の運営が難しい場合もあるため、可能な範囲で地域の皆様にご協力いただける体制づくりが今後重要になると考えている。地域の方々との交流は当施設でも課題としているが、利用者の重度高齢化が進み、職員の負担増加や利用者の身体的な負担もあり、以前のようなフェスティバルの開催は難しい。現状に合わせた企画を考えていきたい。

5. 施設内見学

施設スタッフが説明をしながら、館内の施設見学をした。「初めて見学することができてよかった」「先日の青森県東方沖地震の影響が少なく済んで安心した」と感想があった。